

商工NEWS三鷹



創立60周年記念 特別号
2021(令和3)年12月20日発行

TEL.0422-49-3111 www.mitaka-s.jp 三鷹商工会 検索
発行所:三鷹商工会 〒181-0013 三鷹市下連雀3-37-15 e-mail:mitaka@shokokai-tokyo.or.jp



河村三鷹市長から岩崎会長へサプライズで感謝状が手渡されました。

60th anniversary

おかげさまで 三鷹商工会創立60周年

感謝をこめて記念式典・記念事業を開催!

11月9日午後1時より、三鷹産業プラザにおいて三鷹商工会の60周年記念式典と記念事業が行われ、会場とオンラインで多くの方にご参加いただきました。第一部の記念式典は、岩崎守利三鷹商工会会長からの式辞に続き、功労者の皆様に感謝状が手渡され、受賞者代表として第16代会長の佐藤文典様より謝辞をいただきました。その後、河村孝三鷹市長をはじめとした方々から祝辞をいただきました。

持続的な経済活動のために 事業者様に寄り添い提案を

式辞(要旨) 三鷹商工会会長 岩崎守利

三鷹商工会は地域産業振興と地域経済活性化の担い手として、東京で最初に創立された伝統ある商工会です。現在2,000以上の会員がおり、個性豊かなグループが多様な活動を行っています。これは先輩方の努力の賜物です。また、商工会は、三鷹市との密接な協力関係のもと三鷹駅前再開発や(協)三鷹ハイテクセンターなどの都市基盤や施設整備にはじまり、(株)まちづくり三鷹、みたか都市観光協会設立等、各種団体の設立に関わり、市民との交流として商工まつりの開催や商品券事業の実施などを行ってきました。

これから商工会は70周年に向かって歩みを進めます。困難のなかでも事業継続できる支援を考えていかないとけません。渋沢栄一は「利益を社会に還元しなくては経済活動は持続しない」と述べています。今だからこそ必要とされる考え方だと思います。地域社会に貢献できるよう、事業者様に寄り添い、話を聞き、そして提案しながらさまざまな活動を展開・支援していきます。先人の功績を引き継ぎ、輝く未来に向けた決意を新たにして進んでいきます。

創立60周年記念

表彰者

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 特別功労者 | 第15代会長 | 深沢 精一様 |
| 特別功労者 | 第16代会長 | 佐藤 文典様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 高橋 光夫様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 山崎 正藏様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 金子 彰様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 荒井 正雄様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 石井 泰幸様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 佐藤 晃様 |
| 特別功労者 | 元副会長 | 榛澤 正夫様 |

創立60周年記念

ご来賓芳名簿(順不同)

- | | |
|-------------|---------|
| 三鷹市長 | 河村 孝様 |
| 三鷹市議会議長 | 土屋 健一様 |
| 東京都商工会連合会会長 | 山下 真一様 |
| 東京都議会議員 | 中村 洋様 |
| 東京都議会議員 | 山田 浩史様 |
| 衆議院議員 | 伊藤 達也様 |
| 前衆議院議員 | 山花 郁夫様 |
| 三鷹市副市長 | 馬男木 賢一様 |
| 武蔵野商工会議所会頭 | 高橋 勇様 |



りしながら進んでいこう マにシンポジウムと講演が行われました

シンポジウム

Symposium

新しい人材、新しい発想、新しい手法で輝く未来へ

第二部のシンポジウムは、元三鷹市職員の関様のコーディネートで、衆議院議員の伊藤様、中小企業庁の古谷野様、愛媛・松山のまちづくりを推進した加戸様、河村三鷹市長、岩崎三鷹商工会会長の6名で行われました。冒頭で岩崎会長から、「この場を「これからの夢を語っていただく場にした」とお話があり、熱く意見が交わされました。



地域戦略にも経営的視点が重要

伊藤 日本は他の国が経験したことがないスピードで少子高齢化・人口減少に突入しています。そしてデジタル社会に変わり、脱炭素社会への貢献も求められます。だからこそ新しいまちづくりをしていかないとダメです。スマートシティ、グリーンシティといわれるものを三鷹なりにどう取り入れていくのか。国としては地方創生の交付金、情報支援、人材支援の制度を用意していますが、事業性がないとお金が流れていきません。透明性を持った経営的視点がこれからの地域戦略には極めて重要です。どういうまちを実現するのかゴールを設定し、PDCAサイクルの回し方をみんなで考えていくことが必要です。三鷹市が打ち出している「百年の森構想は国も応援していきたいと思っています。

関 制度をどう使っていくかは地域の力量が求められていますね。経済産業省はどう動かれようとしているかお話を伺いたいと思います。

古谷野 中心市街地活性化政策は大きな転換期を迎えています。地域に住む人が自分ごととして働き暮らす空間をどう作っていくのか、どのようなビジョンを描くのがポイントです。それにはどれだけ思いを持っている人を集められるか。人づくりや人の集め方の支援を国も進めていこうとしています。

関 三鷹も次の世代の人材を探していかないといいけませんね。まちづくりに関わる人をどのように説得し、自身のポジションをどう作っていったのか、愛媛・松山市のまちづくりを推進した加戸様に苦労話をお伺いしたいと思います。

これからは「サツカー型」で

加戸 「僕が汗をかきながら皆さんも同じように動きませんか」と話を持っていきました。やる気がある人を応援する仕組みがあれば全国どこでもできます。スポーツの話に置き換えると、日本は「野球型」で「深化」



衆議院議員 伊藤 達也 氏



コーディネーター (株)ローカルファースト研究所 代表取締役 関 幸子 氏

基調講演

Keynote speech

「これからのまちづくり」と再開発 コンテキスト(＝文脈)を作り、 共有・修正しながら進める

講師



株式会社
まちづくり松山
代表取締役社長
加戸 慎太郎 氏

1982年松山市生まれ。慶応義塾大学を卒業後、2005年に外資系金融会社入社。2009年、家業である株式会社とかげや代表取締役社長に就任。アパレルを主体とし、飲食事業、宅配水事業など地域密着型の消費者ビジネスを展開。2014年、株式会社まちづくり松山の社長に就任。松山銀天街商店街振興組合理事長、一般社団法人お城下松山理事長なども務める。

基調講演では、これからのまちづくりについて、愛媛・松山のまちづくりの事例をもとに「株式会社まちづくり松山」の加戸慎太郎様に「講演をいただきました。」「まちづくりは思い出づくりであり、人と人とのつながりなくしては何もなし得ない。そのために必要なのが考え方のコンテキスト(＝文脈)であり、ITは人が苦勞せずに素早くPDCAを回すための基盤として活用する」といった、示唆に富んだお話を伺いました。「三鷹も国や都とうまく連携をしてやりたいことをやつたらいい」とエールをいただきました。

みんなで想い合う自立したまちづくり

思い出から出発するまちづくり、まちづくりは思い出づくり

「まち」とは一人一人にとって大切な思い出がある場所
人口減少があってもみんながまちに思い出を持ってれば「まち」はなくなる

① 2まちのインフラ改革
まちを経営するという視点、継続して効果を上げる
・地域内循環の促進
・省エネ、低コスト体制の確立

② 動力は「人」(人材の呼び起こし・育成)
「まち」の中心は「人」である
・人材の確保
・人材の育成
・人材の活用

一人ひとりが主導する自立した持続可能なまちづくり

まちを経営するという視点で、「持続可能なまちづくりの仕組み」について語っていただいた



基調講演の
動画公開中!

未来に向け、時代を先取 「これからのまちづくりと再開発」をテ



中小企業庁経営支援部商業課長兼
地域経済産業グループ中心市街地
活性化室長
古谷野 義之 氏



(株)まちづくり松山
代表取締役社長
加戸 慎太郎 氏



三鷹市長
河村 孝 氏



三鷹商工会会長
岩崎 守利 氏

させることに長けた組織構造でした。ポジションごと
緻密に高度に深化していった。対してサツカーは「探索
型」で、まずビジョンがあつて、パスをまわしながら攻
めどころがわかつた瞬間に攻めるといふ方法です。これ
からは、「深化」させる方法と「探索」しながらみんな
で作っていく方法を合わせ技でやるべきで、ここに向か
えばいいということを説いてきたから幅広い人のコンセ
ンサスを取ることができたんだと思います。

「百年の森“構想で三鷹の産業を ワクワクする”ものに

三鷹は市民参加のまちづくりをずっとやって
きました。今後市民と一緒にどのようになちづくりを
進めるか河村市長にお話をお伺いします。

河村 三鷹は住宅都市として成熟してきたまちです。
隣に吉祥寺という大きな商業地域があり、棲み分けを
してきたという時代もありました。しかしこれからは
住宅だけではなく、商業・産業にも重点をおいていき
ます。「再開発」を一番に持つてくるべきだという考え
で、「百年の森」構想を打ち出しています。

構想では、駅前に「子どもの森」を作るといふ計画を
立てています。この考え方は商店街の人との議論のな
かから生まれたものです。子どもが安心して買物物が
できるまちは他の世代も来やすいまちです。そこで助
け合いが自然と生まれるのが理想なのではないか、そ
ういう発想が出てきた。面白い発想だと思いました。
私が子どものころは百貨店に行くことがワクワクして
楽しい体験でしたが今はそういうものがない。しかし
子どもが安心して遊べるような空間として緑があれば
ワクワクするでしょう。「使える緑」として、世界から
問われている持続可能なまちを三鷹から発信していきた
いです。森はすぐにはできませんが、成長していく方向
性を見据えながらまちづくりをすると、50年後、100
年後には変わってくるでしょう。賑わいと緑は矛盾し

ません。それが「百年の森」構想です。
三鷹も新しい郊外都市として文脈を整理して
まちづくりをしていきたいですね。最後に商工会会長
の岩崎様に当事者意識とリスクについてご発言をいた
だければと思います。

人とのつながりを次の世代に伝えていく

岩崎 私は蕎麦屋の三代目です。先代の父が民間再
開発で三鷹コラルを駅前の商店主たちと平成5年に建
てそこで商売をしています。時代が変わり、最初か
ら入っている商店はうちだけなんです。今までの高度
成長のビジネスモデルのなかではもうやっていけない。
商工会も変わっていかなくてはなりません。リスクを
取りに行こうと思つても、今まで支援策ができていな
いという面もあつたと思つますが、経営塾やDXのア
プリを開発するなどの取り組みも行なっています。支
えてくださっている人とのつながりを次の世代に伝え
ていく覚悟を持ち、仲間とともに未来に向かつていき
たいと思つています。

厳しい状況のなかで未来に向けて希望を持つた形の
シンポジウムになりました。商工会は今後も皆さんと
連携し、時代を先取りしながら支援を進めていきたく
と気持ちを新たにしました。

※DX＝デジタルトランスフォーメーション＝デジタル技
術で生活やビジネスが変容すること

関 私たちはコロナ禍で次の段階にかざるをえ
ない状況に立たされています。新しい人材、新しい発想、
新しい手法で三鷹を輝かせていただきたいと思ひ、シ
ンポジウムを終わら
せていただきます。
本日はありがとうございました。

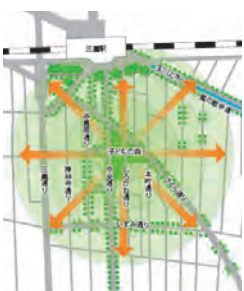
シンポジウムの
動画公開中!



<https://www.mitaka-s.jp/60th.html>



フェーズ3 緑をつないで市全体を「緑のまち」にする
市内にあるさまざまな緑地・里・樹林・農地を緑をつ
ないでいき、市全体を「緑と水の公園都市」にふさわ
しい、緑あふれるまちなみにしていきます。



フェーズ2 三鷹駅前地区の緑をだんだん増やしていく
三鷹駅前地区の緑を
増やすには、市民の
皆さんの協力が欠か
せません。そのため
に市は、今後さまざ
まな支援策のメ
ニューを検討してい
きます。

フェーズ1 “子どもの森”を作る
“百年の森”構想を実現するための第一歩となる拠
点が「子どもの森」です。三鷹駅前が活性化の拠点とし
て多くの市民が集まり、特に、子どもの笑顔と夢であ
ふれる楽しい空間となるよう、検討を進めていきます。
※「子どもの森」は「子ども」未来の象徴として、この場所
が未来のまちの拠点となるように市が示したまちづくりの構
想で、名称は仮称です。

三鷹市「百年の森」のまちづくり

(三鷹駅前再開発事業)

“百年の森”構想って何?

三鷹市は、まち全体がうるおいを持った「緑と水
の公園都市」を目指しています。「百年の森」構
想とは、今ある建物がいずれ建て替えとなるとき
に、緑のスペースを創出していくことで、やがて
市全体を大きな「緑のまち」にし、もっと住みよい、
にぎわいのある豊かなまちをつくるという今後の
まちづくりのコンセプトです。「百年の森」構想
の実現に向けて、三つの段階(フェーズ)を踏み
ながらまちづくりを進めていきます。

三鷹商工会60年の歩み 1960-2021

三鷹商工会は地域産業振興と地域経済活性化の担い手として、東京で最初に創立された歴史のある商工会です。地域の事業者が業種に関わりなく会員となってお互いの事業発展のために総合的な活動を行う団体として、これからも進化していきます。

1960年代

1960年6月に施行された「商工会法」を受けて三鷹商工会が誕生。戦後の高度経済成長期の真っ只中で市内商工業者の意気込みが感じられる10年間で。

- 1960年 6月 「商工会の組織等に関する法律」施行
- 1960年 10月 三鷹商工会創立
- 1962年 「三鷹商工展示会」を開催
- 1963年 「三鷹ショッピングセンター」開店
- 1968年 「三鷹阿波踊り」開催

1970年代

1971年のニクソンドルショックで厳しい経済状況が続く、経営改善指導も強化されました。そのなかで、市内商工業者の拠点となる商工会館が完成しました。

- 1970年 創立10周年記念パレードを開催
- 1978年 三鷹商工会館完成

1980年代

三鷹市・商工会・農協の三者共催の「三鷹市産業まつり」を開催。全国注目の工場アパート「協同組合 三鷹ハイテクセンター」が完成しました。

- 1980年 「三鷹市産業まつり」開催
- 1989年 「協同組合 三鷹ハイテクセンター」完成

1990年代

三鷹駅南口の再開発が具体化しコラルビルが完成。また、「バブル景気」が終焉を迎え、景気後退が続くなか、三鷹市は「三鷹市産業振興計画」やSOHO支援を打ち出しました。

- 1996年 三鷹商工会が「商工連」を結成、阿波踊りに初参加
- 1999年 「株式会社まちづくり三鷹」誕生

2000年代

「三鷹産業プラザ」が完成。まちづくりで「株式会社まちづくり三鷹」と商工会の連携が深まりました。また、「三鷹むらさき商品券」が発行され、経済活性化に寄与しました。

- 2000年 「三鷹産業プラザ」完成
- 2001年 「三鷹の森ジブリ美術館」オープン
- 2007年 「みたか都市観光協会」設立
- 2008年 「三鷹むらさき商品券」発行

2010年代～

「武蔵野エリア産業フェスタ」「三鷹まちゼミ」など、市民と事業者をつなぐイベントが多く開かれました。コロナ禍のもとでは給付金・助成金の申請サポートなど事業者に寄り添った支援が行われています。

- 2011年 第1回「武蔵野エリア産業フェスタ」開催
- 2012年 第1回「TAKA-1」(三鷹名物認定事業)開催
- 2014年 「100円商店街」開催
- 2015年 みののん誕生
- 2016年 「三鷹一日あきないカフェ」開催
- 2017年 「商工まつり40周年」×「井の頭公園100周年記念」開催
- 2017年 第1回「三鷹まちゼミ」開催
- 2020年 「東京都まちゼミフォーラムin三鷹」開催



1962年 三鷹一中の体育館で「三鷹商工展示会」を開催



1963年 建設中の「三鷹ショッピングセンター」



1970年 創立10周年記念パレードを開催



1978年 三鷹商工会館完成



1980年 「三鷹市産業まつり」開催



1989年 「協」三鷹ハイテクセンター完成



1996年 三鷹商工連が阿波踊りに初参加



2000年 「三鷹産業プラザ」完成



2001年 「三鷹の森ジブリ美術館」オープン



2008年 「三鷹むらさき商品券」発行



2011年 第1回「武蔵野エリア産業フェスタ」開催



2012年 第1回「TAKA-1」(三鷹名物認定事業)開催



2017年 第1回「三鷹まちゼミ」開催



2020年 「東京都まちゼミフォーラムin三鷹」開催



2016年 「三鷹一日あきないカフェ」開催